

## 柏の景気情報（平成20年11月分）

○ 調査期間 : 平成20年11月14日 ~ 11月20日

○ 調査対象 : 柏市内112事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	112	79	70.5%
建設	19	14	73.7%
製造	26	18	69.2%
卸・小売	43	31	72.1%
サービス	24	16	66.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成20年11月の調査結果のポイント】

《業況DIが50ポイント台に回復 原材料価格は高止まりしたが価格転嫁に至らず》

○11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲55.6(前月水準▲65.3)となり、マイナス幅が△9.7ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種でマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、建設業▲50.0(同▲66.6)、サービス業▲56.2(同▲68.7)、製造業▲55.5(同▲64.7)、卸小売業▲58.0(同▲63.3)である。

【建設業】では「年末に向けて、工事が集中するので人材不足が憂慮される」(板金・金物工事業)「集金が悪く1社で500～200万位のところが6か月ほど延びているところが何社かあるので、大変困っている。このような時代なので、取引をやめるわけにはいかないがどうしたらよいかわからないという実情がある」(その他の職別工事業)「当社の場合は1年の中で、10～12月で利益を確保していたのですが、今年は9月からマイナスの経常利益となり、来年の売上減少月の資金繰り等、いまから心配しています」(家庭用機械器具小売業)といったコメントが寄せられた。

【製造業】では、「11月に建築士法の改正があり、今後波乱含みになると思われる。一級建築士5年の経験で、構造建築士・設備建築士の国家試験が行われ、一万三千人くらいの受験で約六千人が合格とのこと(全国)確認申請に大幅な遅れが出ると予想され、影響が出るとと思われる」(その他の設備工事業)「固定費分の確保で単価を下げて受注、などかなり厳しい状況」(その他の機械・同部分品製造業)のコメントが寄せられている。

【卸小売業】では、「日用品についても売れゆきは鈍化しております」(食料・飲料卸売業)「不安定な金融証券市場と、企業業績の悪化による収入の影響は個人資産に今後さらに大きな影響を及ぼすものと考えられます」(百貨店)「産地と買い出し人への緻密な行動と消費圏の情報をチェックしてなお一層の対応をしていく」(食料・飲料卸売業)「冷凍食品や調味料等今までスーパーで買い物をしていたお客様もグループで開発しているPB商品の扱いをしている」(その他の各種商品小売業)「日曜、祝祭日の売上が悪くなってきている。不況に加え、周辺に出店した大型店の影響が考えられる」(その他の各種商品小売業)「近隣大型店増床の影響があり、売上が下がった。今後はどうなるか?」(書籍・文房具小売業)といった、現況への様々なコメントが寄せられた。

【サービス業】では「宿泊については好況。宴会は減。地域の消費控えが影響」(ホテル)「世界的な不況の影響や、我が国においても過去の様々なひずみがこの不況下の中ですべての面で影響しているので、さらに当店なども今後ますます厳しい状況になるのではと思う。37年営業していて最悪の状況で先行きが見えない。現在の状況を維持するのが、難しい状況です」(そば・うどん店)などのコメントが寄せられた。

◎原材料・原油と価格転嫁

各業種から「原油が下がり始めたが、材料は高止まり」(土木工事業)、「原油価格は下落しているが、原材料価格への波及は少ない」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「原油価格・先物商品価格で一時低下していますが、仕入れ価格、販売価格の低下には当面つながらないものと思います」(百貨店)、「原材料の値上げをなかなか商品に転嫁できない」(菓子・パン小売業)、「仕入単価11月さらにダウン、商品在庫があり大幅値下げはできない。ガソリンスタンドは即日転嫁、引き売りが本格的に動き出す。当然周辺市況に注目必要。利益確保が困難な年になるだろう」(燃料小売業)などの、原材料価格については高止まり、原油価格は値下がり始めたが、価格への反映ができず苦しい業況の声が多くあがってきている。

◎消費意欲低下と受注減少

各業種から「全体に仕事量が少ない。お客様の財布のひもは固く、年末に向けての景気は良くなりそうにない。リフォーム工事はあるが予算が厳しい」(電気工事業)、「受注を含め引き合いの件数も少なくなった。受注量は通常の3～5割ダウン。孫請けになるとほとんどなく死活問題」(その他の機械・同部分品製造業)、「前月同様売上減単価安が続いている。品目によっては、若干上向き、相対的に軟調に推移が予想される。11月下旬から12月上旬にかけての果実主力に、贈答需要が期待されます。しかし消費購買力が減退していることが続くとも予想されます」(食料・飲料卸売業)、「世情を反映してか、顧客の財布のひもが固く、客単価が低い。よって売上も減」(その他の飲食料品小売業)といった声が多く寄せられた。

◎季節商品

各業種から「今月は七五三の月ですが、関連商品が全く売れていなかったです。お祝いはしているのでしょうから、形式が変わったのでしょうか」(食料・飲料卸売業)、「11月は年末のギフトや年賀状印刷等に取り組み、売上確保に努力している」(その他の各種商品小売業)、「下旬からクリスマスキャンペーンを開催し、展示や装飾でムードを盛り上げ、集客につなげたい」(各種商品小売業)など、季節商品に関するコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲45.0	▲43.7	▲22.2	▲58.6	▲47.0
7月	▲50.0	▲60.0	▲26.3	▲70.3	▲35.2
8月	▲55.0	▲68.7	▲38.8	▲55.1	▲58.8
9月	▲55.1	▲75.0	▲52.9	▲48.2	▲50.0
10月	▲65.3	▲66.6	▲64.7	▲63.3	▲68.7
11月	▲55.6	▲50.0	▲55.5	▲58.0	▲56.2
見通し	▲49.3	▲64.2	▲55.5	▲38.7	▲50.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成20年11月の業況についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲55.6(前月水準▲65.3)となり、マイナス幅が△9.7ポイント縮小した。

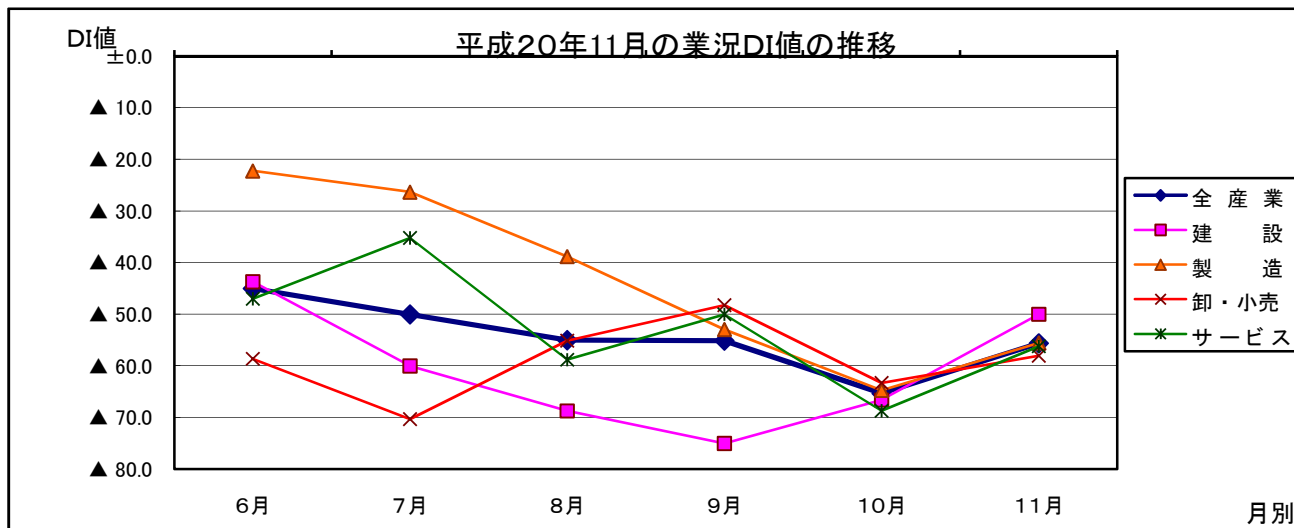
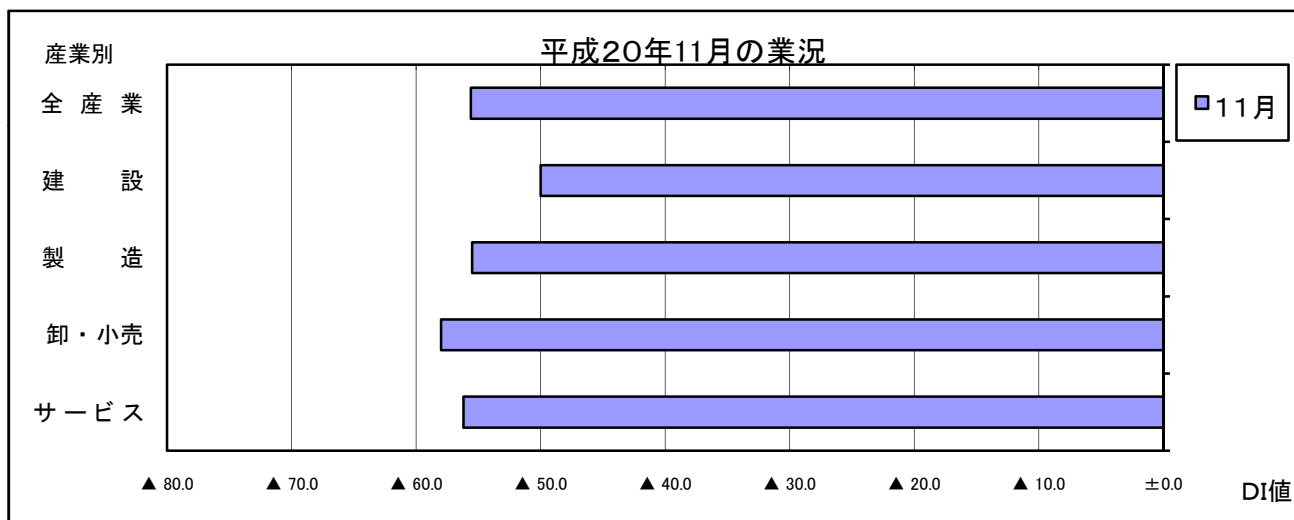
業種別では、前月水準と比べて、すべての業種でマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、建設業▲50.0(同▲66.6)、サービス業▲56.2(同▲68.7)、製造業▲55.5(同▲64.7)、卸小売業▲58.0(同▲63.3)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲49.3(前月水準▲51.2)となり、マイナス幅が△1.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲38.7(同▲50.0)、建設業▲64.2(同▲66.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲37.5)、製造業▲55.5(同▲52.9)である。

平成20年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成20年	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し	
	6月						12月~2月	11月~1月
全産業	▲45.0	▲50.0	▲55.0	▲55.1	▲65.3	▲55.6	▲49.3 ( ▲51.2 )	
建設	▲43.7	▲60.0	▲68.7	▲75.0	▲66.6	▲50.0	▲64.2 ( ▲66.6 )	
製造	▲22.2	▲26.3	▲38.8	▲52.9	▲64.7	▲55.5	▲55.5 ( ▲52.9 )	
卸・小売	▲58.6	▲70.3	▲55.1	▲48.2	▲63.3	▲58.0	▲38.7 ( ▲50.0 )	
サービス	▲47.0	▲35.2	▲58.8	▲50.0	▲68.7	▲56.2	▲50.0 ( ▲37.5 )	



【平成20年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.1(前月水準▲39.7)となり、マイナス幅が△5.6ポイント縮小した。

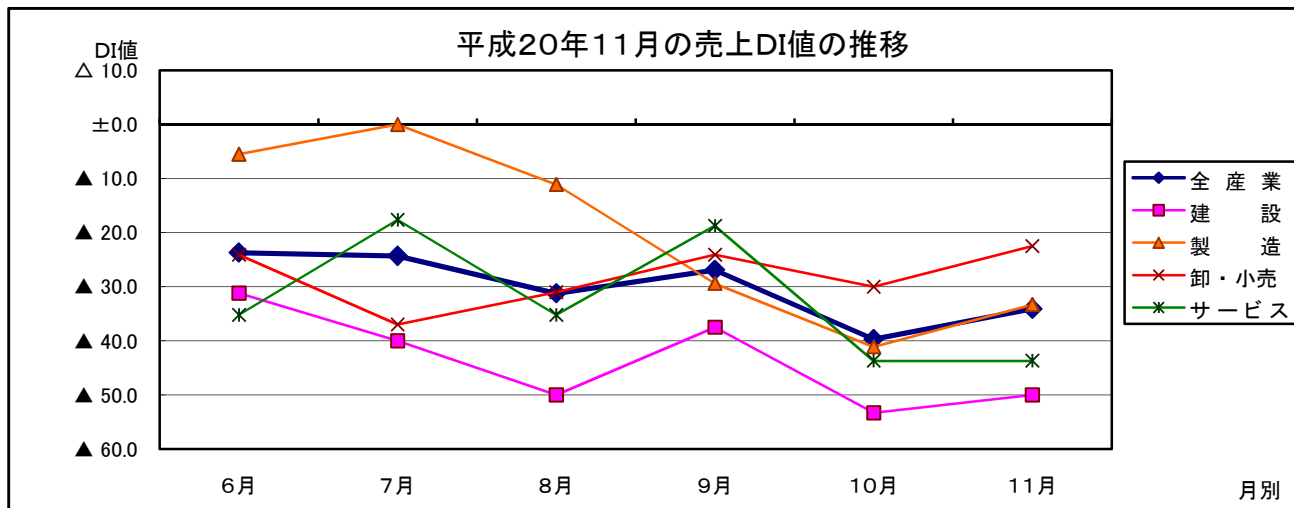
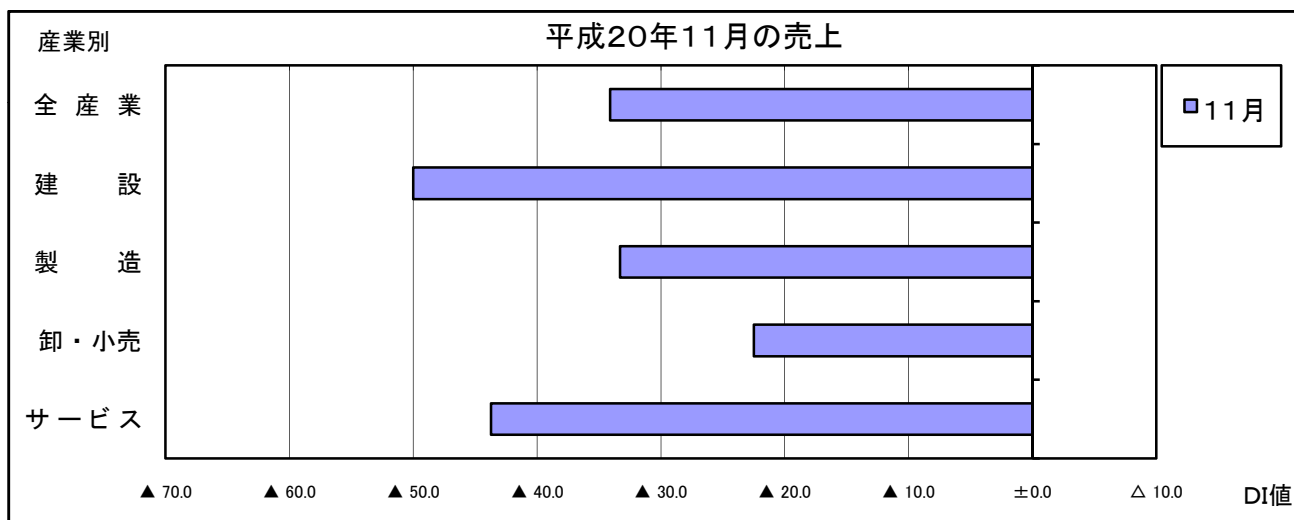
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲33.3(同▲41.1)、卸小売業▲22.5(同▲30.0)、建設業▲50.0(同▲53.3)である。変らない業種は、サービス業▲43.7(同▲43.7)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.6(前月水準▲26.9)となり、マイナス幅が▲4.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲6.4(同▲16.6)、建設業▲50.0(同▲53.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲62.5(同▲31.2)、製造業▲33.3(同▲17.6)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲31.3ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成20年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲23.7	▲24.3	▲31.2	▲26.9	▲39.7	▲34.1	▲31.6(▲26.9)
建設	▲31.2	▲40.0	▲50.0	▲37.5	▲53.3	▲50.0	▲50.0(▲53.3)
製造	▲5.5	±0.0	▲11.1	▲29.4	▲41.1	▲33.3	▲33.3(▲17.6)
卸・小売	▲24.1	▲37.0	▲31.0	▲24.1	▲30.0	▲22.5	▲6.4(▲16.6)
サービス	▲35.2	▲17.6	▲35.2	▲18.7	▲43.7	▲43.7	▲62.5(▲31.2)



【平成20年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲50.6(前月水準▲51.2)となり、マイナス幅が△0.6ポイント縮小した。

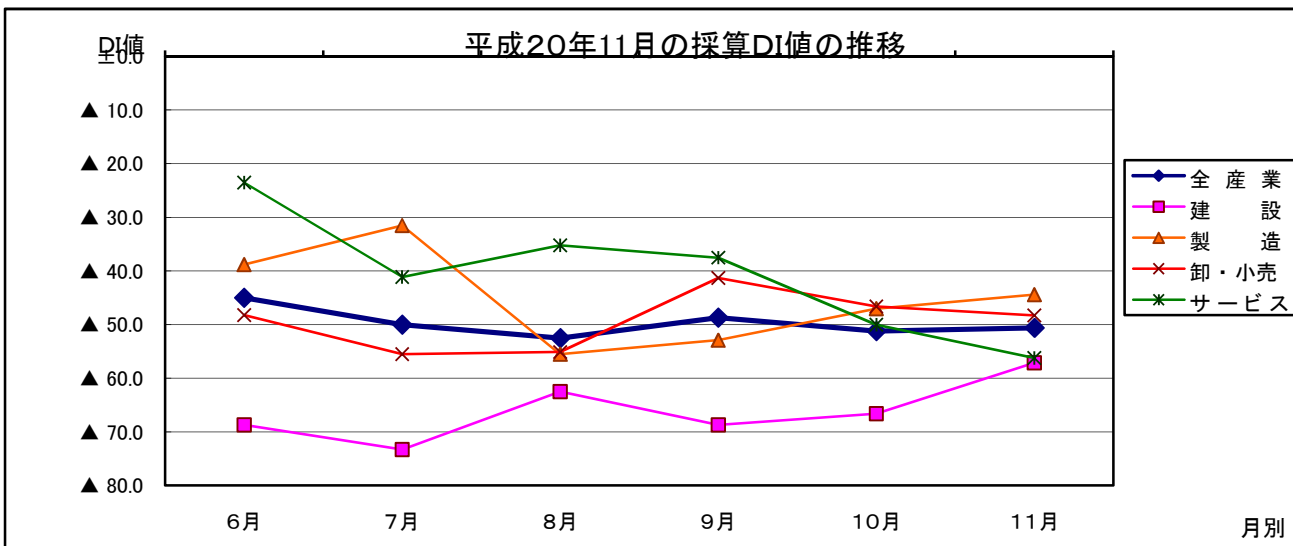
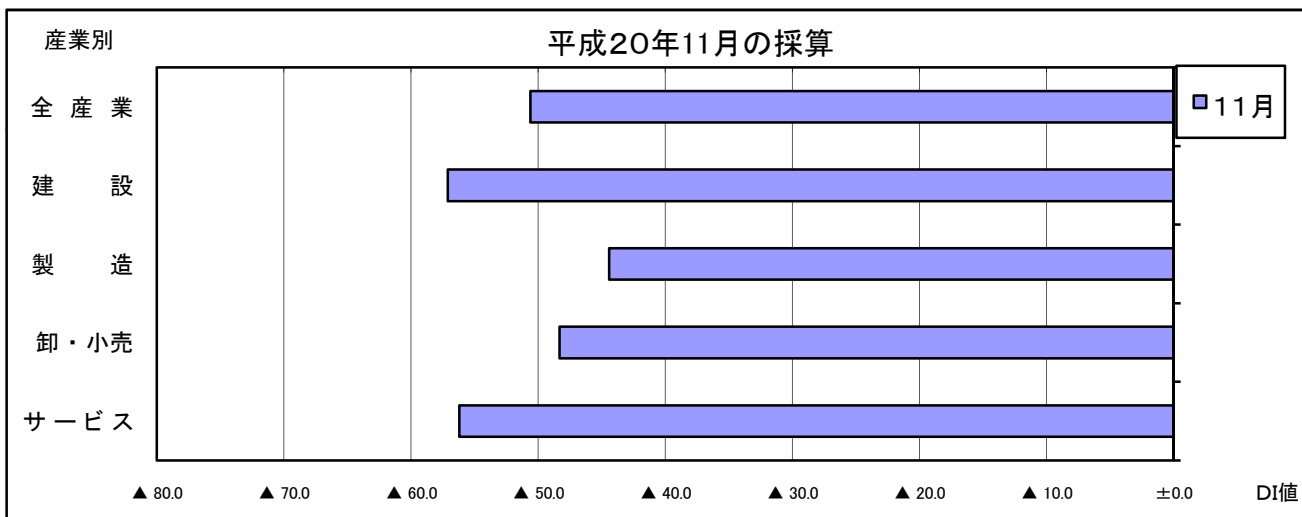
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲57.1(同▲66.6)、製造業▲44.4(同▲47.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲56.2(同▲50.0)、卸小売業▲48.3(同▲46.6)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲48.1(前月水準▲43.5)となり、マイナス幅が▲4.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲57.1(同▲66.6)、卸小売業▲32.2(同▲36.6)、製造業▲50.0(同▲52.9)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲68.7(同▲25.0)で、▲43.7ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成20年11月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月(11月～1月)
全産業	▲45.0	▲50.0	▲52.5	▲48.7	▲51.2	▲50.6	▲48.1(▲43.5)
建設	▲68.7	▲73.3	▲62.5	▲68.7	▲66.6	▲57.1	▲57.1(▲66.6)
製造	▲38.8	▲31.5	▲55.5	▲52.9	▲47.0	▲44.4	▲50.0(▲52.9)
卸・小売	▲48.2	▲55.5	▲55.1	▲41.3	▲46.6	▲48.3	▲32.2(▲36.6)
サービス	▲23.5	▲41.1	▲35.2	▲37.5	▲50.0	▲56.2	▲68.7(▲25.0)



【平成20年11月の仕入単価についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.5(前月水準▲47.4)となり、マイナス幅が△1.9ポイント縮小した。

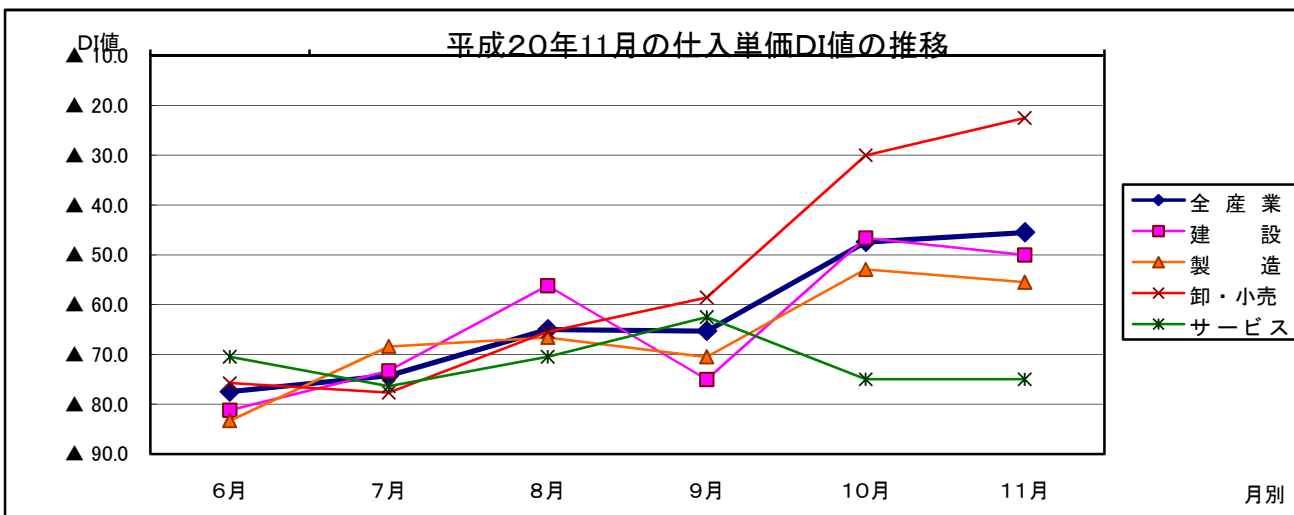
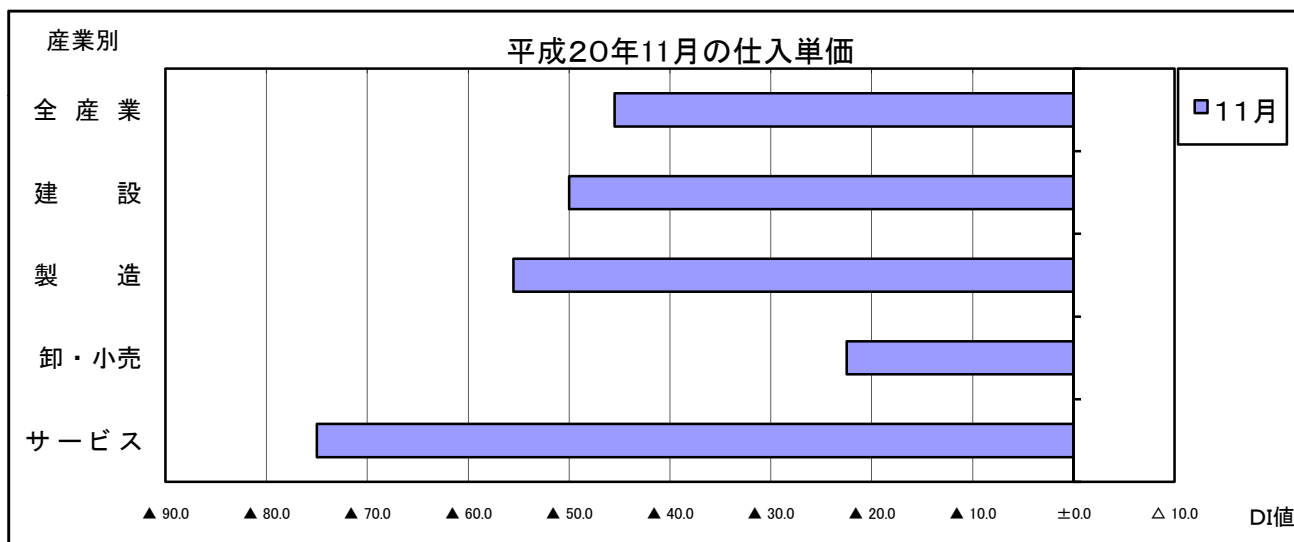
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲22.5(同▲30.0)である。変らない業種は、サービス業▲75.0(同▲75.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲50.0(同▲46.6)、製造業▲55.5(同▲52.9)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.3(前月水準▲29.4)となり、マイナス幅が△4.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲16.6(同▲35.2)、卸小売業▲9.6(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲62.5(同▲50.0)、建設業▲28.5(同▲26.6)である。

平成20年11月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲77.5	▲74.3	▲65.0	▲65.3	▲47.4	▲45.5	▲25.3(▲29.4)
建設	▲81.2	▲73.3	▲56.2	▲75.0	▲46.6	▲50.0	▲28.5(▲26.6)
製造	▲83.3	▲68.4	▲66.6	▲70.5	▲52.9	▲55.5	▲16.6(▲35.2)
卸・小売	▲75.8	▲77.7	▲65.5	▲58.6	▲30.0	▲22.5	▲9.6(▲16.6)
サービス	▲70.5	▲76.4	▲70.5	▲62.5	▲75.0	▲75.0	▲62.5(▲50.0)



【平成20年11月の従業員についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.3(前月水準▲1.2)となり、マイナス幅が▲5.1ポイント拡大した。

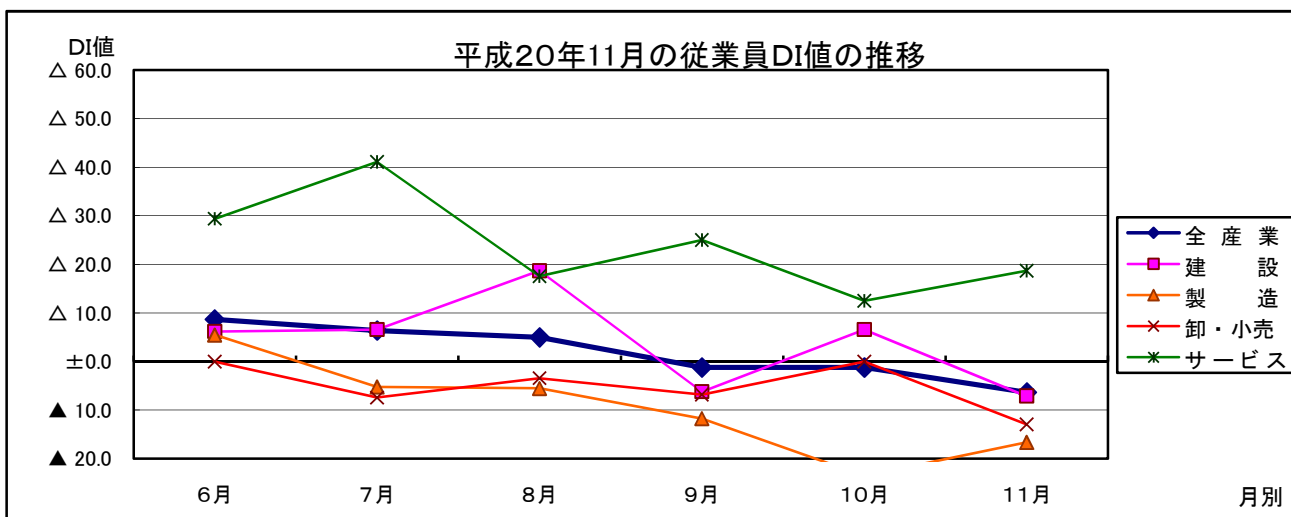
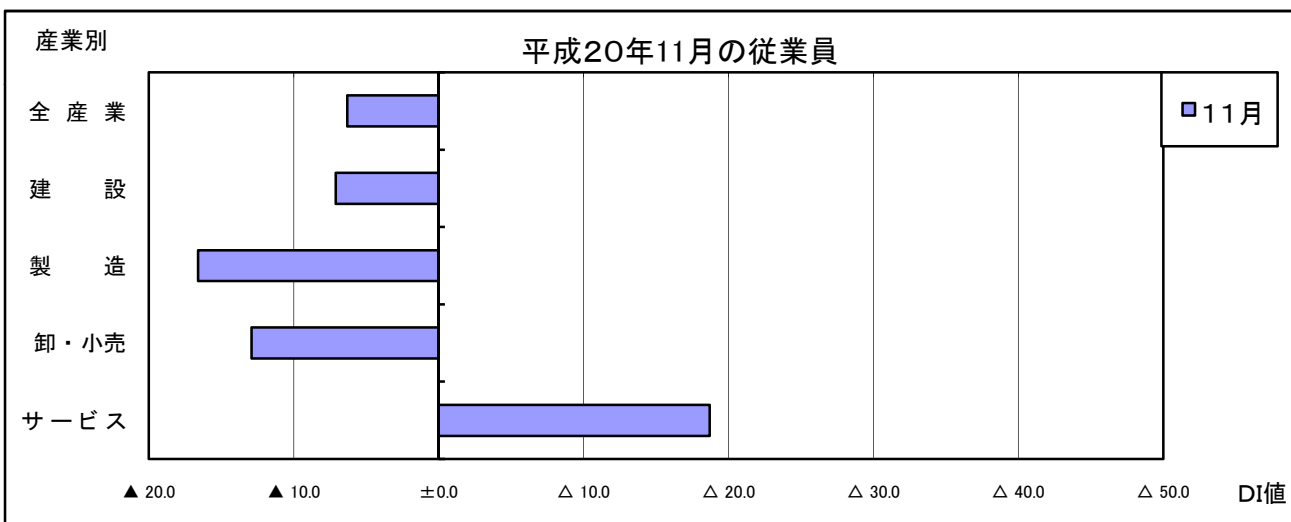
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△18.7(同△12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲16.6(同▲23.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲7.1(同△6.6)である。マイナス幅に拡大した業種は、卸小売業▲12.9(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.5(前月水準△2.5)となり、プラスマイナス幅へ▲5.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△31.2(同△18.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲22.2(同▲23.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△6.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲9.6(同△6.6)である。

平成20年11月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成20年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	△ 8.7	△ 6.4	△ 5.0	▲ 1.2	▲ 1.2	▲ 6.3	▲ 2.5 ( △ 2.5 )
建設	△ 6.2	△ 6.6	△ 18.7	▲ 6.2	△ 6.6	▲ 7.1	±0.0 ( △ 6.6 )
製造	△ 5.5	▲ 5.2	▲ 5.5	▲ 11.7	▲ 23.5	▲ 16.6	▲ 22.2 ( ▲ 23.5 )
卸・小売	±0.0	▲ 7.4	▲ 3.4	▲ 6.8	±0.0	▲ 12.9	▲ 9.6 ( △ 6.6 )
サービス	△ 29.4	△ 41.1	△ 17.6	△ 25.0	△ 12.5	△ 18.7	△ 31.2 ( △ 18.7 )



【平成20年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.7(前月水準▲30.7)となり、マイナス幅が▲6.0ポイント拡大した。

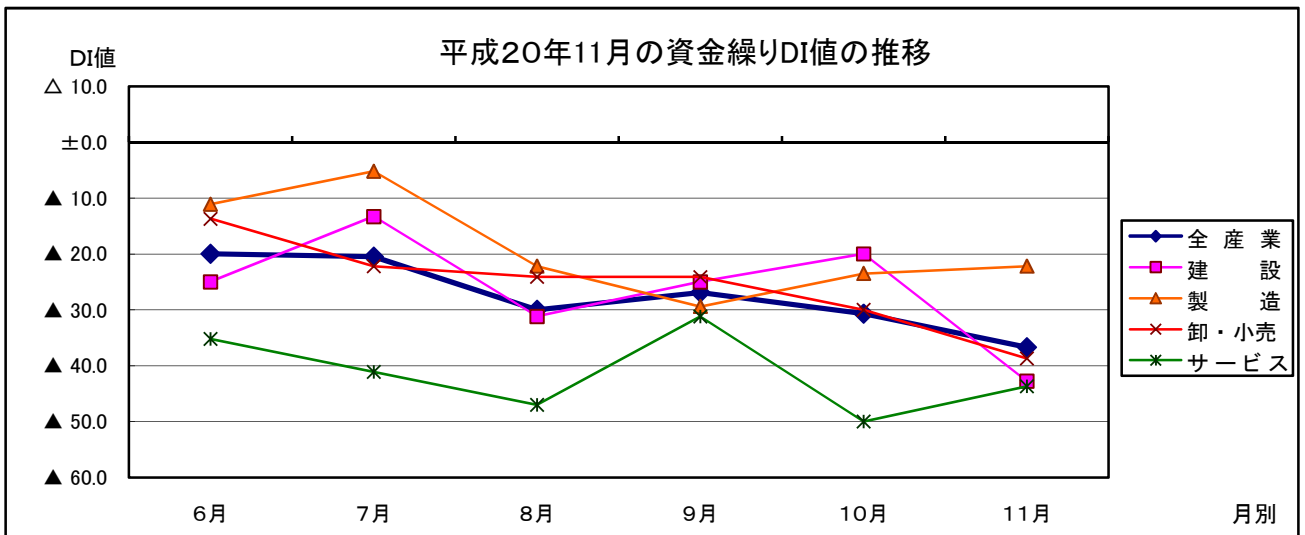
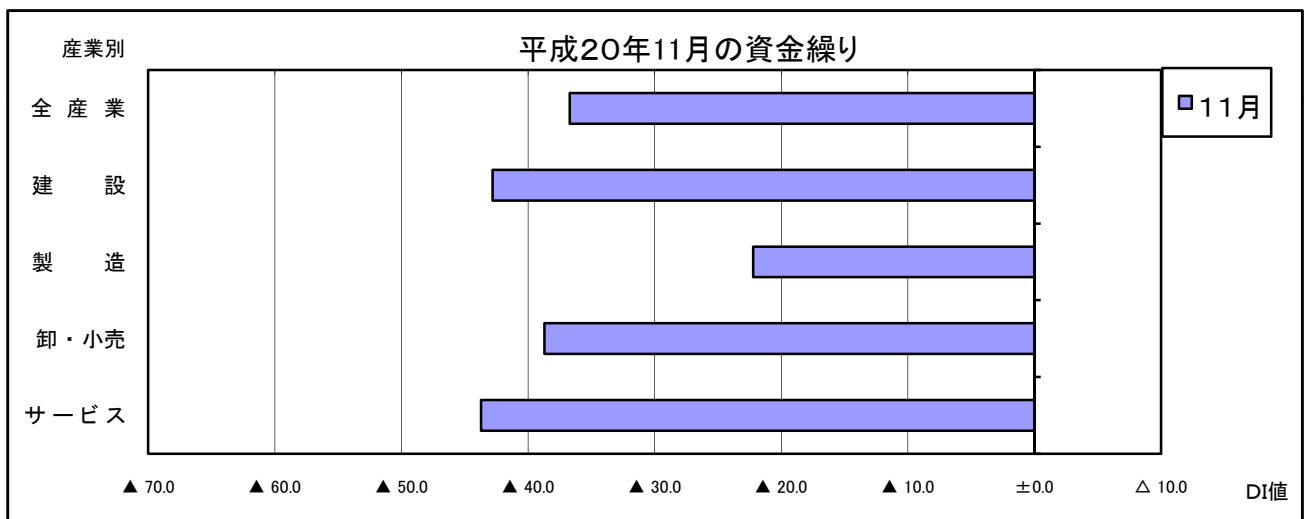
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲43.7(同▲50.0)、製造業▲22.2(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲42.8(同▲20.0)、卸小売業▲38.7(同▲30.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲22.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.6(前月水準▲30.7)となり、マイナス幅が▲0.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲28.5(同▲40.0)、卸小売業▲29.0(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲37.5(同▲25.0)、製造業▲33.3(同▲23.5)である。

平成20年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成20年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲20.0	▲20.5	▲30.0	▲26.9	▲30.7	▲36.7	▲31.6(▲30.7)
建設	▲25.0	▲13.3	▲31.2	▲25.0	▲20.0	▲42.8	▲28.5(▲40.0)
製造	▲11.1	▲5.2	▲22.2	▲29.4	▲23.5	▲22.2	▲33.3(▲23.5)
卸・小売	▲13.7	▲22.2	▲24.1	▲24.1	▲30.0	▲38.7	▲29.0(▲33.3)
サービス	▲35.2	▲41.1	▲47.0	▲31.2	▲50.0	▲43.7	▲37.5(▲25.0)





【平成20年11月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	工事数が減少している。 原油が下がり始めたが、材料は高止まり。	・受注減少 ・原油値下げ ・原材料価格高止まり	一般土木建築工事業 土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	年末に向けて、工事が集中するので人材不足が憂慮される	・人材不足	板金・金物工事業
	集金が悪く1社で500~200万位のところが6か月ほど延びているところが何社かあるので、大変困っている。このような時代なので、取引をやめるわけにはいかないがどうしたらよいかわからないという実情がある	・売掛回収困難	その他の職別工事業
	当社の場合は1年の中で、10~12月で利益を確保していたのですが、今年は9月からマイナスの経常利益となり、来年の売上減少月の資金繰り等、いまから心配しています。	・利益減少 ・資金繰り困難	家庭用機械器具小売業
	全体に仕事量が少ない。お客様の財布のひもは固く、年末に向けての景気は良くなりそうにない。リフォーム工事はあるが予算が厳しい。	・受注減少 ・消費意欲低下	電気工事業
	製造	原油価格は下落しているが、原材料価格への波及は少ない	・原油値下げ ・原材料価格高止まり
11月に建築士法の改正があり、今後波乱含みになると思われる。一級建築士5年の経験で、構造建築士・設備建築士の国家試験が行われ、一万三千人くらいの受験で約六千人が合格とのこと(全国)確認申請に大幅な遅れが出ると予想され、影響が出ると思われる。		・建築基準法の影響	その他の設備工事業
受注を含め引き合いの件数も少なくなった。受注量は通常の3~5割ダウン。孫請けになるとほとんどなく死活問題。固定費分の確保で単価を下げた受注、などかなり厳しい状況。		・受注減少 ・受注単価減少	その他の機械・同部分品製造業
	今月は七五三の月ですが、関連商品が全く売れていなかったです。お祝いはしているのしょうから、形式が変わったのしょう。また、日用品についても売れゆきは鈍化しております。	・季節商品 ・売上鈍化	食料・飲料卸売業
	原油価格・先物商品価格で一時低下していますが、仕入れ価格、販売価格の低下には当面つながらないものと思います。不安定な金融証券市場と、企業業績の悪化による収入の影響は個人資産に今後さらに大きな影響を及ぼすものと考えられます。	・原油値下げ ・価格転嫁 ・金融不安	百貨店
	前月同様売上減単価安が続いている。品目によっては、若干上向き、相対的に軟調に推移が予想される。11月下旬から12月上旬にかけての果実主力に、贈答需要が期待されます。しかし消費購買力が減退していることが続くとも予想されます。青果物卸として、産地と買い出し人への緻密な行動と消費圏の情報をチェックしてなお一層の対応をしていく。	・売上減少 ・単価安 ・消費意欲低下 ・企業努力	食料・飲料卸売業

【平成20年11月の業種別業界内トピックス】

卸小売	コンビニのお客様一人当たり売上金額は700円前後と小学であるため、景気の影響はあまり受けない。11月は年末のギフトや年賀状印刷等に取り組み、売上確保に努力している。冷凍食品や調味料等今までスーパーで買い物をしていたお客様もグループで開発しているセブンプレミアム等、PB商品の扱いをしているため、それらの売り上げも増加している。	・季節商品 ・売上確保 ・プライベートブランド	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	原材料の値上げをなかなか商品に転嫁できない	・原材料高騰 ・価格転嫁	菓子・パン小売業
	世情を反映してか、顧客の財布のひもが固く、客単価が低い。よって売上も減。学生衣料に関しても商品選びには慎重であり、お天気次第で売れる売れないが激しい。文具事務用品は秋の新品が出るが、各商品が値上がりして、販売にまで至らない。今後に期待。	・消費意欲低下 ・客単価減少 ・天候の影響	その他の飲食料品小売業
	原油価格が下がってきたので、商売がやりやすくなった。	・原油値下げ	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	仕入単価11月さらにダウン、商品在庫があり大幅値下げはできない。ガソリンスタンドは即日転嫁、引き売りが本格的に動き出す。当然周辺市況に注目必要。利益確保が困難な年になるだろう。	・原油値下げ ・価格転嫁 ・利益確保困難	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	日曜、祝祭日の売上が悪くなってきている。不況に加え、周辺に出店した大型店の影響が考えられる。	・休日売上不振 ・大型店の影響	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	11月度は月初の三連休入店客数が前年を大きく上回ったことから、売上高も好調な出足となった。2週目以降気温低下してきたが、主力の衣料品の動きが鈍く、昨年同時期から動き出していたブーツ等も大きな動きが見られなかったことから、売上高は前年を上回る推移だったものの、大きな伸びは見られなかった。下旬からクリスマスキャンペーンを開催し、展示や装飾でムードを盛り上げ、集客につなげたい。	・売上高好調 ・衣料品不振 ・クリスマス商戦	各種商品小売業
モーージュの増床の影響があり、売上が下がった。今後はどうなるか？	・大型店の影響 ・売上減少	書籍・文房具小売業	
サービス	宿泊については好況。宴会は減。地域の消費控えが影響。	・宿泊好調 ・宴会減少 ・消費意欲低下	ホテル
	世界的な不況の影響や、我が国においても過去の様々なひずみがこの不況下の中ですべての面で影響しているので、さらに当店なども今後ますます厳しい状況になるのではと思う。37年営業していて最悪の状況で先行きが見えない。現在の状況を維持するのが、難しい状況です。	・金融不安 ・厳しい業況 ・先行き不安	そば・うどん店

◎原材料・原油と価格転嫁

- ・ 原油が下がり始めたが、材料は高止まり (土木工事業)
- ・ 原油価格は下落しているが、原材料価格への波及は少ない (ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製)
- ・ 原油価格・先物商品価格で一時低下していますが、仕入れ価格、販売価格の低下には当面つながらないものと思います (百貨店)
- ・ 原材料の値上げをなかなか商品に転嫁できない (菓子・パン小売業)
- ・ 仕入単価11月さらにダウン、商品在庫があり大幅値下げはできない。ガソリンスタンドは即日転嫁、引き売りが本格的に動き出す。当然周辺市況に注目必要。利益確保が困難な年になるだろう (燃料小売業)

◎消費意欲低下と受注減少

- ・ 全体に仕事量が少ない。お客様の財布のひもは固く、年末に向けての景気は良くなりそうにない。リフォーム工事はあるが予算が厳しい (電気工事業)
- ・ 「受注を含め引き合いの件数も少なくなった。受注量は通常の3~5割ダウン。孫請けになるとほとんどなく死活問題」 (その他の機械・同部分品製造業)、
- ・ 「前月同様売上減単価安が続いている。品目によっては、若干上向き、相対的に軟調に推移が予想される。11月下旬から12月上旬にかけての果実主力に、贈答需要が期待されます。しかし消費購買力が減退していることが続くとも予想されます」 (食料・飲料卸売業)
- ・ 「世情を反映してか、顧客の財布のひもが固く、客単価が低い。よって売上も減」 (その他の飲食料点小売業)

◎季節商品

- ・ 今月は七五三の月ですが、関連商品が全く売れていなかったです。お祝いはしているのしょうから、形式が変わったのでしょうか (食料・飲料卸売業)
- ・ 11月は年末のギフトや年賀状印刷等に取り組み、売上確保に努力している (その他の各種商品小売業)

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 34.1	▲ 31.6	▲ 50.6	▲ 48.1	▲ 45.5	▲ 25.3	▲ 6.3	▲ 2.5
建設	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 57.1	▲ 57.1	▲ 50.0	▲ 28.5	▲ 7.1	±0.0
製造	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 44.4	▲ 50.0	▲ 55.5	▲ 16.6	▲ 16.6	▲ 22.2
卸・小売	▲ 22.5	▲ 6.4	▲ 48.3	▲ 32.2	▲ 22.5	▲ 9.6	▲ 12.9	▲ 9.6
サービス	▲ 43.7	▲ 62.5	▲ 56.2	▲ 68.7	▲ 75.0	▲ 62.5	△ 18.7	△ 31.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 55.6	▲ 49.3	▲ 36.7	▲ 31.6
建設	▲ 50.0	▲ 64.2	▲ 42.8	▲ 28.5
製造	▲ 55.5	▲ 55.5	▲ 22.2	▲ 33.3
卸・小売	▲ 58.0	▲ 38.7	▲ 38.7	▲ 29.0
サービス	▲ 56.2	▲ 50.0	▲ 43.7	▲ 37.5

## 平成20年11月のCCI LOBOとの比較









- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲55.6に対し、「CCI-LOBO」が▲66.7で、柏の方がマイナス幅が11.1ポイント小さい。すべての業種において「柏の景気」の方が良い。特に建設業・製造業は10ポイント以上良い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.1に対し、「CCI-LOBO」が▲53.8で、柏の方がマイナス幅が19.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種においてよく、建設業・製造業・卸小売業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲50.6に対し、「CCI-LOBO」が▲59.7で、柏の方がマイナス幅が9.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種においてよく、建設業・製造業は10ポイント以上良い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.5に対し、「CCI-LOBO」が▲49.6で、柏の方がマイナス幅が4.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.3に対し、「CCI-LOBO」が▲10.8で、柏の方がマイナス幅が4.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲36.7に対し、「CCI-LOBO」が▲41.5で、柏の方がマイナス幅が4.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業。

# 平成20年11月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較






景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 55.6	 50.0	 55.5	 58.0	 56.2
CCI LOBO	 66.7	 70.0	 68.3	 64.8	 64.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 34.1	 50.0	 33.3	 22.5	 43.7
CCI LOBO	 53.8	 62.8	 51.2	 53.9	 52.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 50.6	 57.1	 44.4	 48.3	 56.2
CCI LOBO	 59.7	 67.5	 62.4	 55.1	 58.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 45.5	 50.0	 55.5	 22.5	 75.0
CCI LOBO	 49.6	 55.7	 54.7	 44.9	 51.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 6.3	 7.1	 16.6	 12.9	 18.7
CCI LOBO	 10.8	 28.7	 13.8	 3.5	 4.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 36.7	 42.8	 22.2	 38.7	 43.7
CCI LOBO	 41.5	 55.2	 44.9	 34.9	 38.1

**枠線** は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

**グレー** は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# 柏の景気情報

(11月の調査結果のポイント)

調査期間：平成20年11月14日～20日

調査対象：柏市内112事業所及び組合にヒアリング、回答数 79

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲45.0	▲43.7	▲22.2	▲58.6	▲47.0
7月	▲50.0	▲60.0	▲26.3	▲70.3	▲35.2
8月	▲55.0	▲68.7	▲38.8	▲55.1	▲58.8
9月	▲55.1	▲75.0	▲52.9	▲48.2	▲50.0
10月	▲65.3	▲66.6	▲64.7	▲63.3	▲68.7
11月	▲55.6	▲50.0	▲55.5	▲58.0	▲56.2
見通し	▲49.3	▲64.2	▲55.5	▲38.7	▲50.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

## 柏市の業況

業況口が50ポイント台に回復 原材料価格は高止まりしたが価格転嫁に至らず

11月の全産業合計のDIは前年同月比ベース、以下同じ(55.6)前月水準が9.7ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、すべての業種でマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、建設業(50.0)同(66.6)、サービス業(56.2)同(68.7)、製造業(55.5)同(64.7)、卸小売業(58.0)同(60.0)である。

【建設業】では「年末に向けて工事が集中するので人材不足が憂慮される」「板金・金物(事業)」「集金が悪く1社で5000〜200万位のところが6か月ほど延びているところが何社かあるので、大変困っている。このような時代なので、取引をゆるめわけにはいかないがどうしたらよいかわからない」という実情がある(「その他の職別(事業)」。当社の場合「1年の中で、10〜12月で利益を確保していたのですが、今年は9月からマイナスの経営利益となり、来年の売上減少月の資金繰り等、いまから心配しています(「家庭用機械器具小売業」といったコメントが寄せられました。

【製造業】では、「11月に建築士法の改正があり、今後波乱宮みになる」と思われる。「一級建築士5年の経験で、構造建築士・設備建築士の国家試験が行われ、一万三千人くらいの受験で約六千人が合格とのこと(全国)確認申請に大幅な遅れが出る」と予想され、影響が出ると思われる(「その他の設備(事業)」。固定費分の確保で単価を下げて受注などかなり厳しい状況(「その他の機械・同部品製造業(業)」のコメントが寄せられている。

【卸小売業】では、「日用品についても売れゆきは鈍化しており、不安定な金融証券市場と、企業業績の悪化による収入の影響は個人資産に今後さらに大きな影響を

及ぼすものと考えられます(「百貨店」「産地と買い出し人への緻密な行動と消費圏の情報をチェックしてなお一層の対応をしていく(「食料・飲料卸売業)」。冷凍食品や調味料等今までスーパーで買っていたものを、お客様もブルーで開発しているPB商品の扱いをしている(「その他の各種商品小売業)」。日曜・祝祭日の売上が悪くなってきた。不況に加え、周辺に出店した大型店の影響が考えられる(「その他の各種商品小売業)」。近隣大型店増床の影響があり、売上が下がった。今後はどうなるか?」「書籍・文具小売業」といった、現状への様々なコメントが寄せられた。

【サービス業】では「宿泊については好況、宴会は減。地域の消費控えが影響(ホテル)」。世界的な不況の影響や、我が国においても過去の様々な不況がこの不況下の中ですべての面で影響している。さらには当店なども今後ますます厳しい状況になるのではと思ふ。37年営業している最悪の状況で先行きが見えない。現在の状況を維持するのが、難しい状況です(「そば・うどん店)などのコメントが寄せられた。

## 11月の景気キーワード

### 原材料・原油価格転嫁

各業種から「原油が下がり始めたが、材料は高止まり」「土木工事業)、原油価格は下落している

が、原材料価格への波及は少ない(「ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)。「原油価格・先物商品価格で一時低下していますが、仕入れ価格、販売価格の低下には当面つながらないものと思います(「百貨店)」。原材料の値上げをなかなか商品に転嫁できない(「菓子・パン小売業)」。仕入単価11月さらにダウン、商品在庫があり大幅値下げはできない。ガソリンスタンドは即日転嫁引き売りが本格的に動き出す。当然周辺市況に注目必要。利益確保が困難な年になるだろう(「燃料小売業)などの、原材料価格については高止まり、原油価格は値下がり始めたが、価格への反映ができて苦しい業況の声が多くあがってきている。

### 消費意欲低下と受注減少

各業種から「全体に仕事量が少ない。お客様の財布のひもは固く、年末に向けての景気は良くなりそうにない。リフォーム工事はあるが予算が厳しい(「電気工事業)」。受注を含め引き合いの件数も少なくなつた。受注量は通常の3〜5割ダウン。孫請けになるとほとんどなく死活問題(「その他の機械・同部品製造業)」。前月同様売上減単価安が続いている。品目によっては、若干上向き、相対的に軟調に推移が予想される。11月下旬から12月上旬にかけての果実主力に、贈答需要が期待されます。しかし消

費購買力が減退していることが続くとも予想されます(「食料・飲料卸売業)。「世情を反映して、顧客の財布のひもが固く、客単価が低い。よって売上も減(「その他の飲食料品小売業)といった声が多く寄せられた。

### 季節商品

各業種から「今月は七五三の月ですが、関連商品が全く売れていなかったです。お祝いはしているのですが、形式が変わったのでしよう(「食料・飲料卸売業)。「11月は年末のギフトや年賀状印刷等に取り組み、売上確保に努力している(「その他の各種商品小売業)」。下旬からクリスマスキャンペーンを開催し、展示や装飾でムードを盛り上げ、集客につなげたい(「各種商品小売業)など、季節商品に関するコメントが寄せられた。

### CCI LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が55.6に対し、「CCI LOBO」が69.7で、柏の方がマイナス幅が14.1ポイント小さい。すべての業種において「柏の景気」の方が良い。特に建設業・製造業は10ポイント以上良い。

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測(11月速報)

調査期間：平成20年11月14日～20日  
 調査対象：全国の404商工会議所が2577業種組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

**米国金融危機の影響が本格化、業況DIは98年9月以来の低水準**

11月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は前月水準(64.6)よりマイナス幅が2.1ポイント拡大して66.7となり、98年9月以来の低水準となった。

産業別の業況DIは、建設、サービスでマイナス幅が縮小したものの、他の3業種では拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、原油価格の下落により、今後の採算の改善を期待といった声があるものの、各種原材料価格の高止まりや受注の急減、消費マインドの冷え込みにより、収益面では厳しい状況。また、米金融危機の影響による先行きへの不安や売上の減少、金融機関の貸出姿勢の更なる厳格化などを訴える声が非常に多い。このため、雇用面では過剰感が前月に引き続き強まっている。

【建設業】「受注の減少に伴って競争激化により受注価格が低下し、収益が悪化」(一般事業業)、「資材価格の高騰は落ち着いてきたものの、採算は依然

として厳しい状況」(一般事業業)、「公共工事の大幅な減少に加え、金融機関の貸出姿勢も厳格化」(建築事業)

【卸売業】「金融不安や株価下落の影響により、金融機関による融資の査定に厳しい対応が見られる」(水産食品製造業)、「受注が減少する一方、鋼材等の仕入価格は依然として上昇しており、収益を圧迫」(一般産業用機械製造業)、「受注量は対前年比で2〜3割程度減少。受注先からの大幅なコストダウン要請も見込まれ、さらに厳しい状況」(自動車・附属製造業)

【卸売業】「過去に仕入れた原材料の在庫があるため、販売価格の引き下げは難しく、今後も厳しい状況が続く見込み」(農畜産水産物卸売業)、「消費者の買い控えによる売上の減少など、年末に向けて業況の更なる悪化を懸念」(農畜産水産物卸売業)、「建築関係の受注は少なく、今後も収益確保は厳しい見込み」(建築材料卸売業)

【小売業】「対前年比での来客数の落ち込みは少ないが購入単価や販売点数の減少が顕著」(百貨店)、「前月から消費者の購買力の低下が見られ、特に衣料品や宝飾品の売上が厳しい状況」(百貨店)、「売上は対前年比で20〜30%減少と最悪の状況」(商店街)

【サービス業】「忘年会・新年会の予約が例年に比べ大幅に減少」(食堂・レストラン)、「来客数の減少に加え、電気・ガス料金の値上げや、食材の仕入価格の高騰により、収益が悪化」(他の一般飲食店)、「来客数は前年同月比で減少、年末年始を含め、今後の予約も少な

く、厳しい状況」(旅館)

### 十一月のキーワード

#### 先行き不安感の拡大

各業種から、業況の悪化や、米国金融危機の影響に伴って先行きへの不安を訴える声が増えられている。建設業からは「金融不安の影響に伴って管内の景気悪化により、民間設備投資意欲の減退を懸念」(帯広・一般事業業)、製造業からは「金融危機に伴って米国の不況により自動車関連産業は大きく影響を受けており、今後の収益の悪化を懸念」(佐野・金属加工機械製造業)、「大口ユーザーである鉄鋼メーカーの減産が、今後の受注に影響する見込み」(岡山・耐火物製造業)との声が増えられている。また、卸売業からは「不況に伴って消費の低迷により、年末商戦は一段と厳しくなる見込み」(旭川・食料・飲料卸売業)、「サービス業からは、外国人観光客の減少により低価格競争が発生する可能性があり、収益の悪化を懸念」(札幌・旅館)との声がある。

仕入コストの高止まり  
 原油価格は下落しているものの仕入コストは依然として高止まりで推移しており、各業種から採算への悪影響などを訴える声が増えられている。製造業からは「原材料価格の高騰を製品価格に転嫁できず、収益確保は厳しい状況」(千葉・印刷業)、「原油価格は下落したが、関連商品の価格は下がっており、採算の悪化が続いている」(弘前・電子部品製造業)、「材料費の高騰や住宅着工の減少で相変わらず厳しい状況」(製材木製品製造業)、「卸売業からは、仕入価格の高騰と売上の減少で、収益は悪化」(十別・各種商品卸売業)との声がある。また、小売業からは「原油価格は下落傾向にあるものの、食料品価格の上昇が経営を圧迫」(豊橋・商店街)、「サービス業からは、食料品価格の高騰が続く一方売上が減少し採算が悪化、廃業・倒産の瀬戸際で非常に厳しい」(他の一般飲食店)、「仕入価格は依然として高水準で推移しており、採算は厳しい状況」(館山・旅館)といった声も寄せられている。

#### 消費意欲の低下

食料品をはじめとする諸物価の高騰や、米国金融危機の影響に伴って今後の不安感から消費者の購買意欲の低下による売上悪化などの悪影響を挙げ、声も寄せられている。製造業からは、「生計不安感の高まりから、年末需要に対する受注

は厳しい見込み」(函館・水産食料品製造業)、「百貨店・量販店ともに売上が減少しており、秋冬衣料の今後の受注が不確定」(酒田・織物外衣製造業)、「小売業からは、世界的な金融不安の影響により、食料品や住居関連の売上が厳しい状況」(古河・百貨店)、「消費マインドが急激な冷え込みから、高額商品の売上が悪化」(横浜・百貨店)、「サービス業からは、昨年

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲56.0	▲67.7	▲52.4	▲52.6	▲57.7	▲51.2
7月	▲60.5	▲73.2	▲61.3	▲64.5	▲54.4	▲56.8
8月	▲58.8	▲71.4	▲55.4	▲64.7	▲58.9	▲51.4
9月	▲61.2	▲70.8	▲59.8	▲59.7	▲59.2	▲59.7
10月	▲64.6	▲71.1	▲59.8	▲63.8	▲64.4	▲65.9
11月	▲66.7	▲70.0	▲68.3	▲67.6	▲64.8	▲64.6
見通し	▲60.6	▲68.6	▲62.4	▲54.9	▲60.9	▲55.4

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI